

地域の人材は子供たちの教育活動を支える宝庫

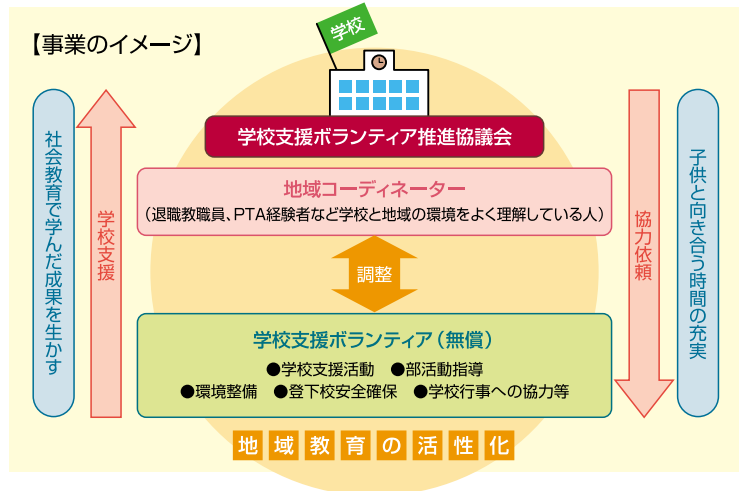
—社会全体で子供たちの教育活動を支援する「学校支援ボランティア推進協議会」の取組みが始まりました—

次代を担う子供たちの健やかな成長を図っていくには、学校・家庭・地域が持っている様々な教育力を活用しながら社会全体で子供の育成を支援していくことが必要です。

東京都教育委員会では、今年度から国の学校支援地域本部事業を活用して、各区市町村に「学校支援ボランティア推進協議会」の設置を推進しています。

この取組みは、学校での学習支援、部活動支援や環境整備などの分野に地域の多様な人たちがボランティアとして学校教育を支援していく活動で、これらの活動を円滑に推進するためにコーディネーターを配置するのがこの活動の特徴です。

現在、都内18の自治体で、地域や学校等の特色や実情を踏まえ実施されていますが、ここでは、北区立滝野川小学校で行われた取組みを紹介します。



■ 北区立滝野川小学校特別支援学級での地域の力を活用した取組み ■

滝野川小学校では、理科や生活科の授業、読み聞かせや図書館活動等に地域の方々を積極的に導入し、開かれた学校づくりを進めています。

今年度、特別支援学級では生活単元学習で「小麦」の授業が行われています。これまでの授業では、小麦が精製されて小麦粉やうどんとなるなど、私たちの身近な食品になること



などを学んできました。今回は、「小麦粉からケーキができる」、「地域の講師と係わりを持つことができる」ことなどをねらいに「シフォンケーキづくり」の授業が行われました。

この授業に際して、講師を務めたのが地域に住む味形さんと、学校のニーズに応じて講師の発掘や調整を行ったのが、コーディネーターの湊さんです。湊さんは学校の意見を聞きながら、地域に住む人の中から、ケーキづくりができることともに、子供たちにわかりやすく、やさしく話ができる人を講師に選びました。

担任の教師とコーディネーター、そして地域講師が打合せを兼ねて、事前にケーキづくりの予行演習をして、当日の時間配分や育成目標を踏まえて授業の準備を進めました。

当日は味形さんと担任が意気を合わせて、ケーキづくりの手順を児童にわかりやすく説明した後、児童が交替しながらケーキづくりを体験しました。その後、講師の方とクラス全員で自分たちがつくったケーキを試食しました。

北区立滝野川小学校林校長先生へのインタビュー

- 地域の方々に学校の教育活動の支援をお願いするには、コーディネーターの担う役割が大きいと思う。コーディネーターをお願いしている湊さんは、主任児童委員として学校に関わっていることもあり、コーディネーターをお願いしました。湊さんの活動により、地域には学校が思いもつかない支援人材がたくさんいることがわかり、地域におけるコーディネーターの人的つながりが学校により教育効果をもたらしていると思う。
- ただ、学校側も地域からのよりよい教育支援活動が円滑に進むよう、本校では学校側にもコーディネートを担う教員を位置づけています。
- 学校と地域の連携の取組みが、しっかりと根を下ろすためには、無理をしないで、できるところから活動を始めていくことがよい結果をもたらしていくのではないかなと思う。

コーディネーターの湊さんへのインタビュー

- コーディネーターとして活動を行っていくうえでは、学校側や地域側のどちらに傾いてもよいコーディネートはできないと思います。三角形の中心点に立つようなバランス感覚が必要だと思います。
- コーディネート活動を充実させる秘訣はありませんが、私は、コーディネートした授業等には原則として立ち会わないことにしています。事前の打合せは十分行い、当日は担任や地域の講師にお任せして、当日はコーディネーターの存在を意識させないようにしています。授業の様子などは後で、担任、地域講師、児童に聞くことにしています。
- コーディネート活動は学校のニーズや地域の特性等を踏まえながら、地道にコツコツと子供たちの笑顔を楽しみに活動していくことが、長続きしていくことにつながると思います。

【学校支援ボランティア推進協議会事業の問合せ先】

東京都教育庁地域教育支援部生涯学習課地域支援係 電話：03-5320-6859 FAX：03-5388-1734